

巻 頭 言

橋本 俊哉

立教大学観光学部 学部長

立教大学の観光教育は、終戦直後の1947年に池袋キャンパスで開講された公開講座「ホテル講座」に始まります。その実績があつて1967年に社会学部に観光学科が開設され、1998年、社会学部観光学科を改組発展させて開設されたのが、4年制大学で日本初となる本学観光学部です。同時に、博士（観光学）を授与することのできる大学院観光学研究科も、日本で初めて設置されました。

その20周年となる本年度、いくつかの記念行事を開催してまいりました。そのひとつが、昨年10月に開催された「観光学部・観光学研究科開設当時を振り返る」と題した記念鼎談です。その内容は現在準備を進めている「20周年記念誌」に掲載予定ですが、「観光学部・観光学研究科開設20周年記念号」と冠した本巻には、その抜粋を掲載しています。

この鼎談において、初代観光学部長の岡本伸之先生、初代観光学科長の溝尾良隆先生、そして初代大学院観光学研究科の専攻主任前田勇先生という、現在もわが国を代表する観光研究者としてご活躍の3人の先生方から伺うことができた当時の貴重な話の数々は、本学の観光学部・観光学研究科のかけがえのない財産です。近年、わが国でも「観光」が4年制大学の社会科学系学部・学科の一領域として珍しい存在ではなくなりつつありますが、とくに1967年の社会学部観光学科の申請手続きも経験されている前田先生・岡本先生からは、「観光」に対する社会の認識が現在とはまったく異なる中で、その道を切り開かれたご苦労が言葉の端々に感じられました。この鼎談の内容は、日本の観光教育・観光研究の歴史を紐解く際にも貴重な記録として位置づけられることでしょう。ご協力いただいた3人の先生方に改めて厚く御礼申し上げます。

今年度、389人（秋卒業16人を含む）が観光学部を卒業、8名が観光学修士、5名が観光学博士としてこの新座キャンパスから巣立ちます。学部・研究科開設から20年が経ち、国内外の幅ひろい領域で活躍する観光学部の卒業生たちに観光の現場でお世話になったり、彼ら・彼女らをゲストスピーカー等の形で大学に迎える機会も増えてきました。大学院修了者はすでに多くの方々が国内外で教員として活躍しています。こうした卒業生のネットワークが年々厚みを増していくことを、観光学部・観光学研究科の教育・研究に携わる者として、大変心強く感じています。

これからも、理論と実践の両面から観光の本質を理解し、社会で幅ひろく活躍できる人材の育成のために、これまで観光学部・観光学研究科を支えていただいた諸先輩方に感謝しつつ、卒業生の力を借りながら、「立教の観光」の次の20年に向けて努力を重ねてまいります。

なお、助教の鄭玉姫先生が今年度で退職されます。5年間、学部教育に尽力いただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。